



# 近代化産業遺産で 活性化を図る



たけごし そういち  
**竹腰 創一**  
おおだ 市長(島根県)



た た み りょうぞう  
**多々見 良三**  
まいづる 市長(京都府)



い わ い けんたろう  
**岩井 賢太郎**  
とみおか 市長(群馬県)



やまぐち しんや  
**山口 信也**  
きたかた 市長(福島県)

司会・コーディネーター

ほそかわ たまお  
**細川 珠生**

政治ジャーナリスト

建築物、機械、文書など、日本の産業近代化の過程を物語る存在として、今日まで継承されてきた近代化産業遺産。これら産業遺産を地域活性化に生かす取り組みが全国的に進む中、近年、日本の近代化産業遺産が世界遺産に登録されるケースが増えていきます。

座談会では近代化産業遺産の保存・活用に向けて取り組む山口・喜多方市長、岩井・富岡市長、多々見・舞鶴市長、竹腰・大田市長にお集まりいただき、それぞれの近代化産業遺産の内容、住民と連携した活用策など、幅広くお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

観光に対して  
市民の協力を促すには、  
経済効果が欠かせない。  
活性化の成功体験を  
積み重ねることが大切です。



山口 信也  
喜多方市長(福島県)

地域に根差した近代化産業遺産

細川 幕末・明治維新から戦前に掛けて、わが国の産業や文化の発展に貢献した近代化産業遺産。経済産業省が認定した同遺産は全国で1000件以上にも及びます。それでは、まず各都市に根付く近代化産業遺産の特徴についてご説明いただきます。

山口 喜多方市は「蔵のまち」とも称されるほど、

市民にとって蔵は身近な存在です。「男に生まれたら、蔵一つくらいつくらないと、一丁前ではない」と語られるほど、蔵はステータスの象徴にも位置付けられています。そうした風潮が色濃い地域ですから、市内には黒漆喰、白壁、粗壁、煉瓦作りなど、さまざまな種類の蔵が4000棟ほど残っています。いずれも喜多方産の蔵は通気性がよく、夏は涼しくて冬は暖かい構造のため、物資の貯蔵にも最適。市内には国内外の品評会やコンクールで入賞実績がある造り酒屋も多数ありますが、その多くが伝統的な酒蔵を活用しています。

近代化産業遺産としては、明治以降、地元産のれんがでつくられた西洋風の「煉瓦蔵」が有名です。市内の三津谷地区には明治時代に築かれた全長18m、全幅4.5mの十連房からなる大型の「登り窯」が現存していて、現在は「喜多方市煉瓦館」として観光にも活用されています。ちなみに、この「登り窯」を含め、多くの煉瓦蔵や煙突などが経済産業省によって近代化産業遺産の認定を受けています。



ほかに、長さ44.5m、高さ24mと、明治43年完成当時は、東洋一のスケールを誇った石造りの鉄橋「二ノ戸川鉄橋」など、市内にはさまざまな近代化産業遺産があります。

岩井 富岡

市の代表的な近代化産業遺産といえば、世界遺産にも登録された富岡製糸場が挙げられます。フランス式の練糸器械を備えた官営模範工場で、地元の人たちの同意を得



市民の生活に息づく蔵。観光施設などにも活用(喜多方市)

て、明治5年に設立されました。練糸所は300人の工女が一齐に作業に当たることができるとの大規模なもので、全国から集まった工女によって本格的な器械製糸が行われました。さらに、フランス人の指導の下、労働時間は1日8時間、日曜は休日、医師も常駐するなど、当時としては労働環境も最先端。富岡が「近代産業発祥の地」と称されるゆえんです。

この製糸場は、経営母体はいくつか変遷したものの、昭和62年まで同地で操業を続け、平成17年にすべての建物が市に譲渡・寄贈されました。その後、群馬県やほかの市町村と連携して、世界遺産に向けた活動を展開し、平成26年に正式に登録がなされたほか、同年には練糸所と東西置繭所おきまゆしよが群馬県としては初めて「国宝」にも指定されました。

富岡市に管理が移った平成17年からの来場者





富岡製糸場西置繭所保存修理工事の見学施設(富岡市)

市内には歴史を物語る近代化遺産が130以上も現存しています。中でも貴重なのが、軍需品などの保管倉庫として建てられた12棟もの赤れんが倉庫群で、このうち8棟は平成20年に国の重要文化財に指定されました。市としてもこれら貴重な文化資源を地域振興に活用しようと、倉庫を改装した上で、平成24年に舞鶴市の歴史・文化・観光情報が集まる交流拠点「舞鶴赤れんがパーク」としてオープンさせました。以来、年間約40万人が来場する人気スポットとなっています。

は平成27年10月現在で400万人を突破しましたが、市としても年間100万人の来場者を目指し、さまざまな仕掛けを講じています。その一つが、「今だけ、ここだけ、あなただけ」をキャッチフレーズに、期間限定で実施している、西置繭所の保存修理工事の公開です。実際にヘルメットをかぶって、工事現場の雰囲気を感じてくれる貴重な機会とあって、多くの方々に来場いただいています。

**多々見** 横須賀、呉、佐世保に次いで、明治34年に鎮守府が開庁したのを皮切りに、舞鶴は海軍とともに軍港、造船、ものづくりのまちとしての歴史を歩み始めました。以来、静かな農村に過ぎなかった市の東地域は、軍事施設をはじめ、各種近代的なインフラが集積しました。幸い、本格的な空襲を受けなかったこともあり、

近代化産業遺産は  
地域独自の文化や技術と  
切り離して考えられません。  
魅力の一つもそこに  
あると思います。

岩井 賢太郎  
富岡市長(群馬県)

今や「赤れんがのまち」として、すっかり定着した舞鶴市ですが、およそ30年前、この文化資源に初めて着目したのが市職員有志でした。本市と同様に赤れんが建造物を持つ他都市と連携し、その活用を模索したのが始まりです。これ

に市民も呼応して、ジャズイベントなどを展開し、最終的に市行政がまちづくりへの活用を決定しました。以来、四半世紀にわたって官民協働で赤れんがを生かしたまちづくりを展開してきました。

**竹腰** 通常、産業遺産とは、産業革命以降に生まれた産業文化の遺産を指します。しかし、大田市の石見銀山の最盛期は1530年ごろからのおよそ100年間であり、厳密に言えば、産業遺産ではなく、「遺跡」という位置付けになると認識しています。

産業革命以前のため、火薬や削岩機さくがんなどを用いず、採掘もあくまで手掘り。さらに、製錬に欠かせない森林資源の管理を含め、地域の気候や文化に根ざした、環境負荷が少ない循環型の鉱山開発が進められてきました。今でも、銀山中には当時の鉱山跡はもとより、周辺には物資を輸送した街道や積み出し港、銀山の操業で栄えた町並みなどが残っています。このように鉱山経営の全体像が分かる各資源が良好な状態で現存し、豊かな文化的景観を形成している例は世界的にも極めて貴重で、そのことが評価され、平成19年7月には世界遺産に登録されました。

それから約8年半が経過しましたが、この間、観光客へのガイダンスなどを担う「石見銀山世界センター」で事前に学習して、現地の遺跡を訪れる観光スタイルも定着するなど、観光客の受入態勢も整ってきました。

現在は、1年半後の世界遺産登録10周年に向け3つの部会からなる実行委員会を設置。市民にも参画いただきながら、石見銀山遺跡を守り、生かす取り組みを一層活発化していこうと、その計画づくりを進めているところです。

## 近代化産業遺産の最大の魅力は 地域性にある

細川 それぞれ特徴のある近代化遺産をお持ちですが、地域の活性化という点を考えれば、その魅力をいかに効果的に市外にアピールできるかが大きなカギになると思います。この点についてはいかがでしょうか。

**多々見** 全国どこでもそうですが、今のまちは突然出来上がったものではありません。歴史の積み重ねの結果です。近代化産業遺産も、そうしたまちの歴史の一端を知ることができることに価値があると思います。特に舞鶴は、戦前の旧軍港、戦後にはシベリアからの引揚者・復員兵を迎え入れた引揚港としての歴史がある。まちの文化遺産を通じて、そうしたまちの歴史的な歩みを分かりやすく伝える努力も必要だと感じています。



さまざまなイベントが開催され、観光客や多くの来場者でにぎわう「赤れんがパーク」(舞鶴市)

**岩井** 富岡製糸場は建設当時、れんが職人がいなかったために、瓦職人が近隣に窯を築いて焼きました。試行錯誤しながら、独自に強固なれんがを製造した職人の努力があったからこそ、あの製糸場はつくられたのです。このように、近

歴史の積み重ねの先に  
今のまちがある。まちの  
歴史の一端を知ることが  
できるところに近代化産業  
遺産の価値もあります。



多々見 良三  
舞鶴市長(京都府)

近代化産業遺産は地域独自の文化や技術と切り離して考えられません。魅力の一つもそこにあるように思います。

**山口** 喜多方市に現存する煉瓦蔵のれんがも地元産です。原料となる粘土も地元のものだし、製造も高い技術を持つ地元の職人によって行われてきました。喜多方市では、まちづくりの目標として「風格ある喜多方」を標榜しています。が、そうした風格は、そのような地域の歴史や文化、技術があつてこそ、形成されるものだと思います。

**竹腰** 石見銀山遺跡も各都市の産業遺産と同様に、地域性が色濃く反映しています。さらに今でも遺跡と住民の生活が一体化しているところにも価値があると思っています。周辺に暮らす住民の皆さんも、遺跡に対する愛着が深く、自主的に「住民憲章」を制定して、景観の保全に向けた取り組みなども積極的に担われています。こうした住民意識も、文化資源を観光振興に生かすためには重要になってくると思います。

**多々見** 確かにその通りですが、実際のところは、地域に生まれ育った地元の人ほど、その価値に気づかないことが多いですね。事実、最初に動き出した市の職員有志も、当初はその魅力を十分に把握できていなかったようですが、他都市との交流を機に赤れんがの価値を理解したようです。それから赤れんがを活用したまちづくりがスタートしたわけですが、ここまでくるとは20年以上の時間が必要でした。

**山口** 確かに、どんな貴重な資源であっても、地元の人にとっては見慣れたものですから、「あつて当たり前」という意識を持つ場合が多いですね。特に会津地方の人たちは積極的に前に出ていこうとしない。どうしても、市外へのPRが弱いというのがネックです。

## 効果的に観光振興につなげるために

**岩井** 富岡市では世界遺産の登録に向けて、NPO法人にも活発に活動いただきましたし、地元企業も熱心で、創業時に用いられた蒸気動力装置の復元などにも協力いただいています。さらに、市内の養蚕農家が減少する中で、富岡製糸場を支えた養蚕を次世代に伝えていこうと、市民が実際に蚕を育てる「市民養蚕」の取り組みも





竹腰 創一  
大田市長(島根県)

遺跡を守り、次世代に  
継承しようと、住民の皆さんが  
「住民憲章」を制定。  
こうした住民意識も、  
文化財の活用には重要です。

進めています。ただし、こうした動きをなかなか観光振興につなげられていないのが実情です。もともと本市は観光地ではないことに加え、保守的な土地柄ですから、観光客を相手に商売しようとする市民は多くない。逆に、観光客が増えることで、これまで来ていたお客さんが不便を感じるのではと心配する方々も少なくありません。



**山口** 観光振興への市民の協力を促すためには、経済効果が欠かせません。やはり個人所得の増大につながることで、一番のモチベーションになると思います。そのためにも行政による効果的な仕掛けが大事。その一例として喜多方市では「花」を誘客に結び付けようと「花でもてなす観光」を進めています。昭和59年に廃止された旧国鉄日中線の跡地3kmにわたって、1000本のしだれ桜を植栽し、春には美しい桜のトンネルをつくる「日中線記念自転車歩行者道」のほか、会津盆地を一望できる三ノ倉高原で、平成24年度から花畑づくりに着手し、2年後には東北最大規模を誇るヒマワリ畑が形成されました。日本の津々浦々にまで普及している伝統ある文芸月刊誌にも取り上げられたおかげで、観光客も増えて、地域の活性化にもつながっています。そうした成功体験を少しずつ積み重ねることが大切だと思います。

**多々見** 舞鶴市でも、誘客の仕掛けとして、クルーズ船の誘致、Wi-Fiスポットの整備、お土産品の充実に向けた土産品のアイデアコンテストの開催なども行っていますが、それらの方策に加えて、より効果的だったのは、おもてなしに当たる側の意識の共有化でした。事実、舞鶴市にはさまざまな観光資源がありますが、平成20

年に「赤れんが」と「海・港」を観光の2本柱に位置付ける観光振興のブランド戦略をつくり、市を挙げてこの2つを前面に出して売り出したところ、観光客が急増したのです。

**岩井** 富岡市でも、経済効果につながるために、いかに富岡製糸場を訪れた観光客に、まちの中を周遊、回遊してもらうかが課題になっていました。道の駅の整備を求める声もありますが、まずは、軽トラックの荷台を店舗に見立てた「軽トラ市」を始めました。いずれにせよ、観光への意識を高めていかなければなりません。

**竹腰** 市を挙げて観光振興を行う場合には、観光と住民の皆さんの生活の折り合いをどうつけていくのかという視点も重要になってきます。本市の場合は特に遺跡や文化財が集中する大森地区、銀山地区は道幅が狭く十分な駐車スペースが確保できません。そのため、世界遺産登録後は、大混雑が予想されたので、パークアンドライド方式を採用しました。町並みから少し離れた場所に駐車場を設け、そこまでは車で来ていただき、町並みや遺跡には、バスや



煉瓦造りの送風装置の一部が残る「清水谷製錬跡跡」(大田市)



細川 珠生  
政治ジャーナリスト

徒歩で移動していただく。この方式を採用したところ、交通の混雑は収まったほか、観光客も安心して遺跡巡りや町並み見学ができるようになりました。今では「石州街道銀の道」として、ウォーキングやサイクリングも盛んに行われるようになっていきます。

### 現状の課題と国への要望

**細川** 近代化産業遺産の保存や活用については、一自治体ではなかなか対応できないこともたくさんあると思います。今後の取り組みを進めるために国や都道府県への要望などはありますでしょうか。

**多々見** 重要文化財などの指定を受けると、活用に制限がかかります。例えば、赤れんが倉庫を活用して、レストランをつくりたいと思っても、それはできません。観光への活用という点を考えると、非常に使い勝手が悪いので、ぜひ柔軟な制度に改善してもらいたいというのが本音です。また、文化財ですから保護や保存が必要になりますが、国からの補助金は十分ではありません。修繕費用に関しても、ある程度市からの持ち出しが必要になります。国にはこの点も配慮してもらいたいです。

**山口** 会津地方は雪国であるため「瓦万年手入れ毎年」とも言っていますが、瓦に限らず蔵の維持管理は念入りな手入れが必要で、当然、費用がかさみます。市としても蔵の補修についての補助制度を設けていますが、市の補助では限りがあるのも事実。日本の文化を守るためにも、県や国に対して、さらなる支援をお願いしたいと考えています。

**岩井** 富岡製糸場に関しては、あえて入場料を値上げして自前で継続的に維持管理を行う仕組みを整えましたが、それができる地域は限られます。その点では私も国からの十分な支援が必要だと思えます。特に文化財は地域独自の文化や技術に基づいた修繕なども行わなければならないのに、予算が少ないためそれができないという事情がある。そんなことでは伝統は守れません。

その一方で、国は重要文化財ではなくても、史跡指定地にある文化財建造物であれば、重要文化財と同じような基準で保存、修理を求めています。逆にこれではいくら予算があっても足りません。予算措置に関しても、保存の考え方にしても、もつとメリハリを効かせるべきだと思います。

**竹腰** 文化的景観は背後にある無形の価値の評価が難しく、西欧や南米の世界遺産とは異なり、そもそも価値の現れ方が一見地味です。これが一一般には分かりにくいとされるところですが、ここに石見銀山のオンリーワンの特徴があります。しかも、主要な遺跡は山岳地帯にあり、このホンモノの魅力をどう伝えるか？ 8年経った今もこのことは引き続いての課題です。また、調査、研究、整備には多額の財源を必要とします。

財源確保の一助にしようと官民協働の石見銀山基金を立ち上げるなどの努力をしていますが、日本の宝、世界遺産を守り継承していくには国の予算の充実と継続的な支援が不可欠です。

**細川** 近代化産業遺産は、いかに地域に根ざした、貴重な文化遺産であるのか、また、この文化遺産を地域の宝として、いかに有効に活用されているのか、お話を聞きがよく分かりました。特に市民と連携しながら、効果的に施策を進められている点が印象に残りました。今後官民が力を合わせ、近代化産業遺産を今以上に地域の活性化につなげられることを願っています。本日はどうもありがとうございました。

(平成28年1月27日、全国都市会館にて開催)

本コーナーは隔月掲載となります。次回は5月号に掲載予定です。



